

四谷の

千枚田だより



第 255 号



令和6年度豊かなむらづくり

鞍掛山麓千枚田保存会が

東海農政局長賞受賞

受賞式は十一月十四日、愛知県新城設楽農林水産事務所講堂でむらづくり審査会平光会長、東海農政局、愛知県農林水産局、愛知県新城設楽農林水産事務所農政課、新城市本庁・鳳来総合支所など、三十人規模の大人数が列席。保存会からは原田英史(理事)、松下 誠(会計)が出席、小山会長が東海農政局実井部長から賞状を授与された。



小山会長は、「この度は、このような荣誉ある賞を頂戴し、誠に光栄と思えます。思えば平成九年、鞍掛山麓千枚田保存会を設立。四谷の千枚田の保存継承、むらづくりを目標に『継続は力なり』を主眼に会員共々、ゆるぎない活動が評価されたものと受け止め、今後の糧としたい。」とお礼の言葉とした。

受賞の理由(評価)

○二十五年以上にわたる棚田の保全活動を通じて美しい棚田の景観を維持。千枚田で生産された米(ミネアサヒ)を丸八製菓(豊橋市)へ出荷し「千枚田五平餅」を製品化。地域特産品として、道の駅やネットショッピング等で販売し好評を得ている。○イベントでの協力で他組織との関係性を深め、地元小学校、専門学校、企業と連携した稲作体験、研修等に取り組み、食育・社員教育にも貢献している。○棚田全体をピオトープとして自然豊かな景観と生物多様性の保全に努め「生物多様性条約第十回締約国会議(COP10)」（名古屋）の誘致に貢献。○今では、都市近郊から年間二万人もの人たちが「癒し」や「古き良き日本の原風景」を求め訪れる場所となり、新城市、愛知県の顔と謳われている。

収穫感謝祭

「さあつかまい 感謝をこめて餅つきを」

十二月八日、四谷の千枚田「ふれあい広場」を会場に一年の農作業を労う収穫感謝祭が行われた。



時雨まじりの朝、保存会、地域住民、棚田っ娘はお天道様を頼りに開催準備。

十時、十一時半、二時の三回、二白ずつ、参加者を交え餅をつき「あんこ」、「よもぎ」、「きな粉」、「大根おろし」にして参加者に大判振舞いした。また、害獣被害軽減に捕獲したイノシシの「しし汁」も大はそり二杯。定番の「鳥長の皮きも」の焼肉。自家製の「漬物」も美味しい。

旨い：と大好評であった。

嬉しいことに千枚田の保存継承に絶大な協力を頂いている丸八製菓から「八雲だんご」も提供された。参加者は、腹いっぱいでも、ついっ食べれん：と言いなながらも、ついっいと、別腹に詰め込んでいった。イベントに毎年、華を添えていた「天空のコンサート」のミュージシャン仲間も地域住民と一体になり感謝祭の盛り上げに尽くしていただいた。感謝♪



遠くの山が吹雪く寒風の中、参加者の心は熱く、師走の一日を満喫した。

ふるさと水と土指導員会議

十一月十一日、稲武どんぐり工房（豊田市武節町）に於いて令和六年度ふるさと水と土指導員連絡会議が開催され原田英史、小山舜二が出席した。

会議には、岡崎市、豊田市、新城市、愛知県農林基盤局農地部農地計画課、西三河・豊田加茂・新城設楽農林水産事務所担当職員。指導員は鳥川ホタル保存会（二名） 千万町・木下ふるさとづくり委員会（三名） 中馬蕎麦倶楽部（三名） 桑原棚田の景観を守る会（一名） 道の駅どんぐりの里いなぶ（一名） 鞍掛山麓千枚田保存会（二名） 名倉地区営農推進協議会（二名） つくで農と食の楽校（一名）が参集した。

今回の会議はコロナ感染症を危惧、五年ぶりの開催で各地で活動する指導員も久々の顔合わせに近況報告、活動報告も和気藹々と進行、闊達な意見交換が飛び交った。

活動報告は、害獣被害、収穫米の高温障害、また都市住民や大学生などのボランティア受け入れを積極的に活用し、活動エリアの環境維持（草刈り）や交流イベントの開催などが報告された。

記憶に、千万町・木下ふるさとづくり委員会は千万町小学校（廃校）を「千万町楽校」とした活動拠点に、山里のお宝を活かしたふるさとづくりらしいじゃん千万町木下くをメインテーマに春夏秋冬、地域の伝承文化、いきいきふれあいサロン、

山里体験など多岐にわたる取り組みが紹介された。

愛知県では農地や土地改良施設の利活用に関わる地域住民の共同活動（地域住民活動）を推進するため、ふるさと水と土指導員を配置している。

（令和六年四月一日現在二十三名）

指導員の役割

○都市との交流を含めたイベントなどの交流活動を企画・指導する等
中山間地域のリーダーとして保存活動に対する助言や推進指導。

○地域の人々に対する中山間地域における地域住民活動の活性化の必要性についての啓発。

○都市住民の交流活動への参加気運の高揚促進。

四谷の千枚田盛り上げ隊

十一月二十三日、二十四日の両日、丸八製菓（豊橋市）は「四谷の千枚田盛り上げ隊」のイベントを同社八雲だんご直売所で行い、三百超人の人々で賑わった。

メインイベントの餅つきは同社の初めての企画で四谷の千枚田で収穫された抜群のおいしさを誇る「鈴原糯」で、保存会の小山会長も同社の鈴木専務、職人長らと一緒に餅をつき、千枚田で作られたお茶とともに振る舞った。

餅つきは、子供たちも参加して一日三回行われ「あんこやきな粉」にした餅を参加者に振る舞った。参加した主婦は「お餅も美味しく、子どもにはいい経験になった」と喜んでいた。

直売所では四谷の千枚田の米を使った特製のだんごやグッズも販売され、訪れた人々が行列を作って買い求めている。この催しは、同社の先代社長が棚田の景観と米を育てる人々に感銘を受け、約十年前から千枚田の保存継承の支援を続け、多岐に渡り、継続されている。



ふるさとウォーキング

十一月十日、連谷公民館恒例行事の「ふるさと探訪」が行われた。コースは旧連谷小を起点に「学童農園やまびこの丘」までで、片道約8km。参加者は最高齢八十六歳を頭に、約三十名が歩く。歩く、一人のリタイアもない、元気に目的地に到着。



帰路は交通公共機関（豊橋鉄道）の利活用としてバスに乗って（二百円）滝上バス停で下車。区長さまからゴミ袋を渡され、三km弱の沿道のゴミ拾い、あまりにもゴミの少なさに参加者は満足を得た。

昼食は、豚汁、焼肉、五目飯、へば（クロスズメバチ）など、贅沢三昧。グラウンドゴルフを行う予定であったが雨のため、中止。晩秋のバカ楽しい一日を満喫した。

行 令和六年十二月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二